



オリーブ通信



2024
11月号
2024.11.9 発行
第271号

<http://www.ne.jp/asahi/olive/kusatsu/>



新(あたら)しいなかまを紹介(しょうかい)します



ホリエ エドワルド ユージ
(ブラジル)



ソン イジン(中国)

どうぞよろしく😊

キウ ツエ(中国)
写真はありません

中川先生のへんてい日本語

169

何円入れますか



市内のスーパーで買い物をして、レジでプリペイド式カードを差し出したら、恥ずかしながら大学生風のアルバイト店員さんから、わずかに料金が不足していることを告げられた。いちばん大きいお札を差し出しチャージをお願いしたところ、「何円入れますか」と問われ、子供じやあるまいしと思いつつ、「全部」と答えた。

こんな場面に出会ったことがある。幼稚園くらいの子供がお母さんとタイ焼きを買っていた。「ぼく、いくつ?」の店員さんの問いかけに「ぼく、みつつ」。後ろからお母さんが「いつつください」とカバーしていた。またある時は、子供が店員さんに、「これ何円?」と尋ねる場面も。「いくつ」や「いくら」といった具体的な数字を問う表現は、子供には苦手なのだろうか。

日本語教育では、「このかばんはいくらですか」や「りんごはいくつありますか」などと、かなり早い段階で教える。初級初歩で導入される表現であるゆえ、子供っぽく思われるのだろうか。

社会のデジタル化が進み、人間の思考にもデジタルの波が押し寄せている。針つきのアナログ時計を使わなくなると、「5時前/5時過ぎ/5時半」は聞かれなくなり、「原稿用紙5枚まで」は「5,000字まで」と表現を変える。

子供は大人に比してデジタル思考が強いのもかもしれない。年齢を尋ねられて、「72歳だ」と答えるのではなく、「年男だ」とか、「辰年だ」などと答えるのも、アナログ派なのかもしれないが、アナログ表現の方が、やはり趣がある。

いくつになってもアナログ思考は捨てがたい。

オリーブで出会った印象に残る生徒さんたち

30年の活動の中で忘れがたい生徒さん(学習者さん)は何人もいますが、初期のころ勉強以外で楽しい時間をともにした人たちは特に印象に残っています。

その中からひとり中国人の史雲香さんを紹介します。

史さんは、夫さんが残留孤児だったので、家族として日本へ来られました。感じがよくて、頭の回転も速く、日本語も一生懸命勉強され、あれよあれよという間に日本語能力試験2級※を取得されました。ちょうどわたしが上級班を受け持っていた頃です。この上級班には彼女のほかに、日本人と結婚した流ちょうな日本語を話す若く元気な中国人女性、頭がよくて上品な韓国人女性、そしてチームティーチングのペアの西村さん(後に中国人と結婚)がいました。

史さんは至って真面目な人なのですが、天然ボケでたびたび笑わせてくれました。授業はいつも楽しい笑い声に包まれていました。

一度この班のみんなと秋にわたしの夫の車で上高地に旅行したことがあります。途中休憩で寄った道の駅で、テーブルにつくなり史さんはテーブルに豆乳のでっかいパックをどんと置きました。当時お茶もジュースも飲んでなかった彼女は旅行中の飲み物として豆乳を持ってきていたわけですが、その出し方が面白くみんな笑い転げました。

また、彼女には中国語クラスの先生になってもらったり、中国料理教室の講師にもなってもらったんですが、料理中に「ここでオドロキ水を入れてください」「はい〜?」「史さん、それびっくり水だよ〜」ということがあり、ここでも笑いをとっていました。日本人でもやってしまいそうな間違いで、言葉の意味を理解しているからこそなんです。彼女が間違ったときの様子がとてもキュートで忘れられません。

史さんはオリーブを卒業して今は通訳・翻訳の仕事をしています。これを書いていると久しぶりに会いたくなりました。連絡しなくちゃ。 恩地美和

※当時の日本語能力試験は1級~4級



史さんと



オリーブ上級班上高地旅行

創立30年に対し、私の在籍はまだ15年ほどです。昔のことだと、受け持った多くの生徒さんが短期間だったこともあり、どちらかと言うとエピソード記憶の方が残っています。

オリーブで教え始めた頃の事です。テレビを見て日本語の聞き取りの練習をしている生徒さんから「先生、『こだわり』とはどんな意味ですか?」という質問。CMで「こだわりの〜」とか言っているのを聴いたらいいのです。

日本語の漫画を読んでいる生徒さんからは「先生、ナラクノソコとは何ですか?」という質問。セリフの中に「奈落の底に落ちるぞ」というのがあったらしいのです。

教えていた内容は忘れましたが、文法にこだわっている生徒さんからは「先生、それは変化に規則はありますか?」という質問が。

中級クラスの生徒さんを教えていると、上記のような即答できないような質問が来るのがよくあり、タジタジとする時がありました。

やはり記憶に残るのは数年以上継続して教えていた生徒さんでしょうか。

その中で担当していたインドネシアのバエヌル・シディックさんですが、2016年のBNN日本語スピーチ大会に出ることにした時のこと。

原稿を書いてもらう際、最低一つエピソードを入れようと提案。今でも覚えています。バエヌルさんが書いてきたのは次のような内容でした。

仕事で工作機械を操作していたある時、機械が不調になりあわてて「正」と書かれたボタンを押したがかえっておかしくなった。正すという意味だと思い、このボタンを押せば直ると勘違いした。実は回転方向を指示する「正転」「逆転」のボタンだった。というようなエピソードでした。

さらに締め切り間近になっていたため、オリーブの勉強時間だけでは間に合いそうもなかったため私の自宅まで来てもらって二人でスピーチ練習で時間を測定したりしたことを印象深く憶えています。

2016年2月28日、スピーチ大会会場にて。
緑色のダウンジャケットがバエヌルさん



その後、バエヌルさんは帰国されましたが再来日して今は愛知県内で働いているとのことで、今年の30周年記念パーティーにも来てくれました。 豊村信良

とうなんアジアの天国

スピーチ大会に参加したかった原稿たち

私の名前はハニフです。インドネシア人です。インドネシアは大きい国で海がとても美しく、それに山がたくさんあります。インドネシアの山でスメル山がいちばんきれいだと思います。スメル山のちょうじょうから湖が見えます。ラヌクンボロという湖です。ラヌクンボロでおよぐことができませんが、ラヌクンボロの近くにキャンプができます。私はスメル山にのぼったことはありませんが、SNSでスメル山のことをよく見えています。インドネシアではスメル山がとてもゆめめいです。インドネシアにかえってからスメル山にのぼるつもりです。スメル山の近くにちいさい山があります。プロモという山です。プロモには馬がたくさんいます。馬に乗ることができます。でもねだんがちょっと高いです。プロモでコーヒーを飲みながら美しいけしきを見るのはきもちがいいと思います。ほかにもインドネシアの山がまだたくさんありますがスメル山とプロモがいちばんのぼりたい山です。バリです。たくさん外国人がいます。外国人におしえて上げたいです。バリは国じゃありません。バリ島はインドネシアにあります。バリでおよぐし、ダイビングすることができます。バリ島にはかんこうちがたくさんあります。クタビーチ、タナロット、パダンパダンビーチ、キンタマニなどほかにもたくさんあります。バリに行ったら帰りたくないと思います。インドネシアは天国のようです。

サユリがんばって!

私のなまえはデニゼ アラカキ サユリです。おばあさんとおじいさんは私のファーストネームのよみかたをしらないので、日本のなまえがあります。でも、私はブラジル人です。今日は私の夢について話します。

12年前、私は大学でべんきょうをはじめました。日本語もべんきょうしました。そして、日本語をべんきょうするのが大すきになりました。大学のべんきょうがおわったら、つうやくとしてはたらくことをけつしました。でも、ブラジルでよいしごとをみつけるのはかんたんではありません。それで、そつぎょうしてからマーケティングのしごとをはじめました。でも、たのしくない。そのときは私のゆめがとくにあることに気づきました。大学をでてから日本語をつかわないのでたくさんわすれてしまいました。ことし、かれしといっしょに日本に来たのでゆめはさらに大きくなりました。今、私は本当にがんばろうとおもいます。つうやくするだけでなく、ブラジル人に日本語とぶんかをおしえたいです。



先月の活動 (10月)

日本語教室 10/5(M), 19, 26 (3回)

- 日本語教室の(M)は定例ミーティング
- ()内は参加者、または 参加予定者。敬称略



参加人数 (10月)

月日	10/5	10/19	10/26
学習者	20	18	15
スタッフ	23	23	21



会員の動き (10月)

- 〈新入会〉なし
- 〈休会〉なし
- 〈退会〉なし
- 〈賛助会員 10/31 現在



今月の活動予定 (11月)

日本語教室 11/9, 16, 23, 30 (4回)

11/9 (土) ミーティング

11/17 (日) 秋の遠足：琵琶湖博物館

秋の遠足～

琵琶湖の歴史と生き物を知ろう (*^*)

いつ：11月17日(日)

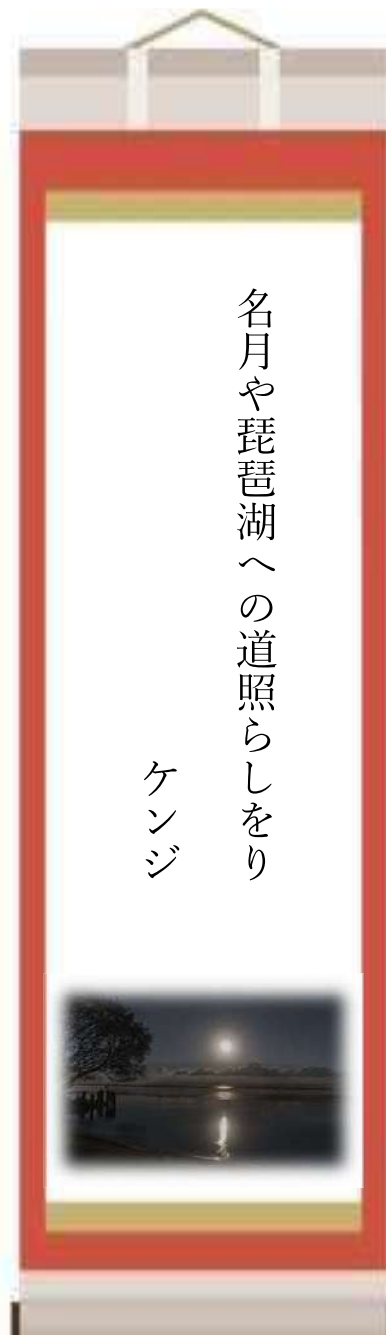
いくところ：琵琶湖博物館(この日は無料です)

集合時間：9:10

集合場所：JR草津駅改札口のパン屋の前

持ち物：バス代 行き440円 帰り440円

昼ごはん、飲み物



名月や琵琶湖への道照らしをり

ケンジ

KIFA 国際理解講座



多言語カフェ フランスの暮らし



11.29 FRI

13:30-15:00

キラリエ草津5階 協働ひろば

参加費

一般 300円・KIFA会員 無料

定員

先着15名

定員になり次第しめきり

お申し込み

メール、電話、QRコード

お問い合わせ

草津市国際交流協会KIFA

草津市草津3-13-30草津市役所2階

☎077-561-2322 ✉kifa-japan@coda.ocn.ne.jp



フランスのお菓子の
試食もあります！

